

大学院に入学して

運動機能科学領域 松本 凱貴

私が大学院への進学を決めたのは、私が取得している資格「骨粗鬆症マネージャー」がすべてに繋がっていると考えています。私は2期生ということもあり、1期生の授業カリキュラムなどをWebで確認し、大学院では主に老年学を中心とした授業展開であることを事前に情報を得ていました。前述した資格を取得するにあたり、「フレイル」や「サルコペニア」なども一緒に学ぶことが多くありました。加えて、大学院ができる前から、同じく前述した資格を取得している、指導教官である今岡先生との出会いもありました。そのご縁で、貝塚市と不二製油株式会社との産官学連携において実施されるプロジェクト「つげさんアタマとカラダをしるヘルスチェック」にも進学前から何度か参加させて頂きました。そこでは、予防理学療法的重要性や必要性について気づかされることが多々あり、この分野についてもう少し学びを深めたい、研究を行っていきたいという思いがありました。そこで本学の大学院が開設することを知り、2期生として入学することを決めました。

大学院に進学するにあたって、不安面もありました。私は入学時には家庭も持ち、子どももいたので、家庭内の事情で出席できない日もあるのではないかと、仕事と家庭、学業と両立ができずに学びを深めることができないのではないかと懸念していました。しかし、そんな懸念点は学校側のカリキュラムやオンラインを活用した学習など、学校側のバックアップ体制が整っていたこともあり、そのおかげで1年間を乗り切れたと思います。

進学すると、前期は私が選択した科目の兼ね合いもありゼミ活動を含めた計7限、後期ではゼミ活動を含めた計6限と、前後期共にとても濃厚な日々を過ごさせて頂きました。授業内容もとても興味深く、「フレイル」や「サルコペニア」はもとより、「認知症」についても多くのことを学びました。「認知症」に関しては武田学長の専門分野ということもあり、とてもわかりやすく、「認知予備力」を高めておくことの重要性などを学びました。さらに、この1年は老年学といった専門分野以外にも、英語や教育学、地域社会でのリーダーを養成することを目的としたリー

ダー論など多岐にわたる授業展開でした。英語に関しては高校以来のため、他の授業よりも苦勞した思い出があります。しかし、1期生の先輩方や先生方のバックアップもあり、わからない点に関してはすぐに解消でき乗り切ることができました。学びを深めるためには英語論文を読むことが必要であり、英語の必要性を改めて認識いたしました。また、ゼミで研究を進めていくにあたっては、こういったデザインで、対象者や研究の方法はどのように決めるのかなど、より詳しく学ぶことができ、様々な発見がありました。研究活動をするにあたって、テーマや対象者などは元々研究をしたかった分野があったためすぐに決まりましたが、いざデータを取り、解析を進めていくと、思ったデータが出たり、出なかったりと苦勞する点も多くありました。研究というのは多面的に見ていかなければいけないと再認識いたしました。

修士課程も残り1年となりました。残りの期間で修士論文の執筆や行った研究を学会で発表していく1年になるかと思います。大学院2年生では英語論文を読み進めていき、自分の糧となるような1年にしたいと思います。また、授業で学んだ研究の進め方をもとに職場でも研究を行ったり、教育学で学んだ方法などを用いて後進育成などにも活かしていきたいと考えています。

